

英語論文執筆セミナー 実施報告書

- 【日 時】令和3年2月17日(水) 13:30～15:30
【場 所】オンラインでのバーチャルセミナー
【講 師】川上 輪子氏 (リンクサイエンス代表)
【受講者数】コース受講者 32名 (うち女性研究者 14名)
岐阜大学2名、岐阜薬科大学25名、岐阜女子大学2名、
アピ株式会社3名



今年度は、英語論文の書き方オンラインコース「インターネット時代に採択される英語論文の書き方」受講で英語セミナーを開催した。受講期間中の一日をバーチャルセミナーとして、各自研究室等で受講してもらい、質疑応答など行った。バーチャルセミナー参加者は23名であった。

【プログラム】

I. 最近の受動態のトレンド

- 1 時代のトレンドと受動態
- 2 受動態はどのような場面で使うべきか？
- 3 デモンストレーション用の文献
- 4 デモンストレーションと解説
- 5 実践練習問題
- 6 実践練習問題の解説

II. 賢いタイトルとアブストラクトでチャンスをつかもう！

- 1 賢くキーワードを選ぼう！
- 2 効果的なタイトルとは？
- 3 差がつくアブストラクトを書くステップ
- 4 実践練習問題
- 5 実践練習問題の解説

III. パンクチュエーション 基礎編

- 1 カンマの使い方の基本
- 2 研究の条件、結果、目的などを賢く箇条書きで紹介するテクニック
- 3 カンマで賢く補足の説明を付け加えるテクニック
- 4 パンクチュエーションの使い方の復習
- 5 実践練習問題
- 6 実践練習問題の解説

IV. (ボーナス) 英語論文を書き始めよう！

- 1 電子書籍「英語論文を書き始める前に自身に問いかけるべき質問」
- 2 電子書籍「英語論文を書き始める前に自身に問いかけるべき質問」の使い方とまとめ

当日は、『Ⅱ. 賢いタイトルとアブストラクトでチャンスをつかもう！』の単元でセミナーを実施してもらった。

オンデマンド方式は自分のペースで進められる利点があるが、ライブ中継として講師の説明を聞き、疑問点を直接問いかけて答えを得るという従来の方法は、やはり取り組みやすいと感じた。ただ、カメラオフにしていると質問がなかなか出にくい傾向がある。

<事後アンケートの集計結果より>論文に適した単語選別や作文方法などの基本的な事項から、キーワード選びやタイトルのつけ方などを意図的に行う意義などの応用まで、実例を挙げて具体的に分かりやすく講義をしてもらえた。非常に有益であったと思われる。キーワード検索サイトなどは、論文採用された後に自身や研究グループをアピールするのに非常に有効であり、ぜひ意識的に使用して論文作成をしてもらいたい。理系に特化した論文例になってしまったが、意図的なキーワード設定などはすべての研究者に参考になるはずである。

Microsoft Meeting 利用であったが、講師受講者双方で使用手順に戸惑いがあり、担当者として事前の打ち合わせを丁寧に行うべきだったとの反省がある。

教員・研究者のみならず、学生も論文執筆に向けて積極的に受講してくれた。本セミナーの開講は、研究者育成支援の一環として非常に有益であったと思われる。

